

海に沈んだ長生炭鉱の遺骨、 日本社会の責任を問う

11月8日(日) 午後2時 (開場1時30分)

イーブルなごや 3階ホール

(地下鉄 名城線「東別院」下車1番出口から東へ徒歩3分)

講師 **井上洋子**さん

(一社)「長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会」代表理事

1950年生まれ。長野県天龍村出身。大学時代に地元の平岡ダムで強制労働が行われていた事を知り、衝撃を受ける。結婚を機に山口へ移り、長生炭鉱の存在を知る。1991年に「長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会」(以下、刻む会)設立に参加し、戦時中の水没事故の記憶を継承する活動を開始。設立後は韓国遺族との交流事業も積極的に進め、犠牲者の本名を刻んだ追悼碑の設置に尽力する。2011年団体職員を定年退職後、刻む会の運動に専念、2015年には同会の共同代表に就任し、遺骨返還に向けた活動を続けている。2025年11月、刻む会の一般社団法人格への移行に伴い、代表に就任。



1942年2月3日朝、山口県宇部市東部の長生炭鉱の海底に延びた坑道のおよそ1km沖合で水没事故が起き、183名の坑夫たちが亡くなりました。そのうち7割に及ぶ136名が朝鮮人労働者でした。犠牲者の遺骨の収集と返還、事故を歴史に刻むために1991年「長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会」が結成されました。毎年2月には韓国から遺族も参加され「犠牲者追悼集会」が開催されてきました。

今年2月の集会中に潜水調査に協力されていた台湾人ダイバー、ウェイ・スーさんが不慮の事故で亡くなりました。刻む会は潜水調査を一旦断念し、更なる安全確保のために1年間の総括期間を置くことになりました。日韓首脳会談でも長生炭鉱は議題となりました。刻む会代表の井上洋子さんに長生炭鉱がはらんで来た日本の戦争責任と植民地支配の清算とは何か、これからの日韓両国と市民の課題についてお話ししていただきます。

会費:1,000円(学生は500円)

本会は「集会に参加する際には会費を払う」との会則を設けており、「会費は、年会費制度ではなく、本会主催の集会などに参加する毎に規定の会費を支払うものとする。」としています。集会に参加する際には会費を払ってご参加して下さい。新規参加の方も、受付に必要事項を記入して、会費を払って下さい。ご理解のほど、よろしくお願いします。

主催

「韓国併合」100年東海行動実行委員会

中村区那古野1-44-17嶋田ビル2F

Eメール:31demo1919@gmail.com